

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3071201390
法人名	社会福祉法人 皆楽園
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	〒649-6214和歌山県岩出市水栖644-1 (電話) 0736-61-5566

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年2月22日
評価確定日	平成22年4月14日

【情報提供票より】(平成22年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 10.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	1日330 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	榎本医院 西歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該事業所は和歌山県において高齢福祉分野に事業を展開する皆楽園が運営するグループホームの一つです。法人の理念のもとに事業所では年度目標を掲げ、利用者支援を行っており、今年度は笑顔とやさしさで安心できるサービスの提供を謳っています。職員は意欲的に受け取り、法人内グループホーム間と二つのユニット間で学び合い、利用者も含めて交流したり交換研修を行うなど、理念や方針に沿った利用者への支援を行っています。また、利用者の誕生日には、個人個人へのお祝いとして、好きな食事の提供を行い、他の利用者がケーキを買いに行くなど、大きな家族として祝い合い尊重し合う支援を行っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は、全職員で検討し、具体的な課題を掲げて出来る事から改善に向けた取り組みを行っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表は全職員に前回の評価結果と共に配布し記入を促すと共に、現場での支援に生かせるよう検討しています。出された意見や記録を基にユニットリーダーがまとめて、全体の課題を見つけ支援に反映できる体制を整えています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、正副区長や民生委員、市職員、家族代表等の出席を得て、2ヶ月に一度隣接する小規模事業所と合同で行われています。日々の活動や入居状況、研修内容等の報告と共に、地域の高齢者の状況や利用者・家族の悩みなども話し合わせ、活発な意見交換の場となっています。また市の職員の参加で、制度上の問題などの情報が伝わり会議の内容が深められています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に出来るだけ意見や苦情を聞くようにしています。また、年に一度家族会が行われており、家族の交流と共に意見を出し合う機会となっています。出された意見には出来るだけその場で管理者が返事をするようにしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、運営推進会議で区長や民生委員から地域情報を得て地域の夏祭りや敬老会に参加しています。また事業所でも地域を巻き込んだ夏祭りを企画し、隣接の小規模事業所との合同で出店し、花火大会であったり、盆踊りもあり利用者家族、地域の方々共に楽しむ事が出来ています。また、中学生の職場体験の実習の受け入れを行ったり、犬の散歩の途中に立ち寄る子どもがいたり、地域に溶け込んだ事業所の様子が伺えます。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で生き生きと暮らし続ける事を理念とし、ホームの年間目標を「笑顔とやさしさで安心できるサービスの提供をおこないます」と掲げ支援を展開しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念と共にホームの目標を各ユニットに掲示し、いつでも目に入るようにしている。理念を読まれた利用者との話題にあがることもあり、再確認する機会になっている。ミーティング時には再確認の意味を込めて唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、運営推進会議などで区長や民生委員から地域の情報を得たり、行事の声掛けがある。地域の夏祭りや敬老会の行事などに参加し、地域の方々と挨拶を交わすなど地域に溶け込んだ生活となっている。ホームでは隣接するデイケアとの共催で夏祭りや盆踊りを地域向けに開催し多くの参加を見るとともに利用者の楽しみとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価表は全職員に前回の評価結果と共に配布し記入してもらい、ユニットリーダーがまとめている。白紙の自己評価表の配布で、職員の現場での支援だけではなく、利用者支援のために何をすべきかなど全体の課題の理解に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	正副の区長や民生委員、2名の市職員、家族の参加を得て二ヶ月に一度隣接の小規模事業所と合同で行われている。活動や入居状況、研修内容等の報告と共に地域の高齢者の状況や利用者・家族の悩みなども話し合われ、活発な意見交換の場となっている。また市の職員の参加で、制度上の問題などの情報が伝わり会議の内容が深められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の運営推進会議への参加があり、会議終了後などにホームの悩みや、課題等について相談機会となっている。独居者の権利擁護の問題などについても、制度の運用に至る援助や協力を得るなど、サービスや運営に向けたやり取りが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者制を取っており、毎月利用者の様子について健康や介護状況はじめ行事や日常の様子を報告項目に沿って記入し家族に伝えている。状況が分かりやすいとの家族の意見もあり来訪時の話し合いが深められている。金銭管理については家族は利用料の支払いに来訪された時に出納帳の確認を行い、領収書の返却と共にコピーを届けている		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の月々の来訪時に出来るだけ意見や要望を聞くようにしている。年に一度家族会を持っており、家族の交流と共に意見を聞く機会となっている。利用者個人的な要望が多く、出された意見にはその場で管理者が返事をしている。	○	家族から出される意見は個人的な事も多く即答され、個々に返答しているが、運営に反映できることについては家族全体に返す機会を見つけられ、家族との更なる信頼関係の強化に繋がられては如何でしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が無いように個人的な悩みについては様子を見て話し合うようにしている。新入職員は利用者との関わりを第一と考え業務を行うようにしており、日勤を中心に勤務に就き、数日間はベテランスタッフが付き様子を見て夜勤に就いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人の研修には情報提供を行い、パートも含めて希望を聞き参加している。法人の研修は出席しやすいように夜間に行われており、自由参加で行われている。ホームでは2ヶ月に一度法人内グループホーム3事業所と合同で研修を伝達研修なども含めて行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型サービスの事業所間ネットワークが整備され、2ヶ月に一度管理者を中心にグループホーム間の交流が行われている。また法人の事業所間で交流会が行われており、利用者も含め職員の交流が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には出来るだけ見学を勧めている。隣接の小規模事業所の利用者の入居もあり既に顔見知りの場合もある。入居後は家族の協力を得ながら、電話や訪問等で落ち着くまでの支援と協力をお願いするなど対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とされている事を出来るだけ継続できるように配慮している。梅干し造りや伝統の料理作り等職員は多くのことを教えられている。ひ孫の誕生を孫と共に喜ばれる利用者の笑顔に、職員や他の入居者も含め感動を共感するなど、大家族のような関係が培われている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を一部を利用しながら、日々の流れを経過表で把握し、利用者の思いやつぶやきを記録に残している。意見の表出が困難な利用者に対しては、様子やしぐさなどで把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を反映できるよう日々の関わりの中から意向の把握に努め、ケアプランに反映している。通院時の医師の意見や薬の指示を記録し、毎月ケース会議を開きケアプランの評価を行い見直しを行っている。家族の来訪時には、出来上がったケアプランの確認を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3カ月毎に見直しを行っており、状況の変化があればその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の行けない方への通院援助や、行きつけの理美容院への送迎を行っている。季節の衣替えの際の買い物や、希望に沿った買い物にも出かけ、時には他の利用者への誕生日のケーキを買いに行くなど、個別の買い物を利用者にとって喜びになっていることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当って、利用者や家族の意向に沿ってかかりつけ医は決められている。今までのかかりつけ医を継続されている方も多く、利用者の薬や指示を電話で確認するなど日常的に利用者の個別のかかりつけ医と連携を取っている。緊急時には協力医療機関と連絡を取りアドバイスを頂き対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には事業所の重度化の対応の現状を伝え、同意を得ている。家族には利用者の健康状態などを事前に細かく伝え、医師の意見も含め今後に向けた話し合いを行っている。事業所として出来る限りのことはしていきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については研修を行い、職員間で徹底するようにしている。利用者毎の個性や状況に合わせた声かけをしている。個人ファイルなどの記録物は鍵のかかる書庫に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はラジオ体操をするようにするなど事業所としての日々の流れはあるが、手紙を書いたり、昼寝をしたりと利用者のペースで生活が出来るよう支援している。毎週のシーツ交換時に、利用者が自ら手伝いをして頂く事もあり、職員と共に出来る事に携わって頂くなど、意向にそった日々になるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、前後の献立と重ならないようにしながら、利用者と共に決めている。足りない食材を利用者と共に買い物に行ったり、出来る事を手伝って頂きながら食事を作っている。配下膳や洗い物等も手伝って頂いていただき、職員と共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能なように準備をしておき、利用者の希望に沿うようにしているが、午後からの入浴が主となっている。拒否傾向にある利用者には、声かけや時間を変えるなどで入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の手入れや希望によってはドライブ、また梅干しを漬けて頂くなど、趣味や得意なことは出来るだけ活かせるように支援している。誕生日には個人へのお祝として、希望に合わせた食事の提供を行いケーキを囲んでみんなで祝っており、大きな喜びとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や近所への散歩を行っている。季節によっては花見や紅葉狩りなどは車で出かけている。出かける機会が少ない時には、ウッドデッキでプランターの花を見たりお茶の時間にしたりと外気に触れる機会を増やしている。今後は利用者の馴染みの場所への外出も企画してゆく意向である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの実践をしておき、外出への意向が見られた場合には、さりげない声かけを行い、同行したり話し合っている。日々の変動のある方や入居して間もない利用者には特に気を配り、一緒に出かけ納得のいくように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。一度は消防署立会いによる夜間想定で行い、自主訓練ではビデオを利用したり、様々な状況の研修として行われている。運営推進会議でも相談したり、地域の区長や民生委員への協力依頼を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、水分は大きく一日を想定し不足する方には、十分に取れるよう配慮している。法人の管理栄養士に定期的に献立を見てもらいアドバイスを受けるなど配慮している。朝食などでは茶がゆやパン、ご飯などが自由に選べるなど利用者の好みに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットを囲むウッドデッキは、真ん中にシンボルツリーが植えられています。どちらのユニットからも眺められ、出入りが出来る構造で、天気の良い日にはユニットを超えた食事会や、おやつタイムをウッドデッキで行っている。リビングは広く、好きなところに座れ、畳部屋には炬燵があつたりと居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレと洗面があり、クローゼットの設置で便利な環境を作っている。利用者には馴染みの物を持参いただくように勧め、利用者毎の好みに居心地のよいようにして頂いている。仏壇の持参で毎朝の仏飯のお供えをされたり、机や椅子の設置で家族へ手紙を書かれていたり入居前の生活が継続されるよう配慮している。		